

第 1 6 回  
全国果樹技術・経営コンクール  
受賞者の概要

主 催 全国果樹技術・経営コンクール実行委員会

全国農業協同組合中央会  
全国農業協同組合連合会  
日本園芸農業協同組合連合会  
全国果樹研究連合会  
公益財団法人 中央果実協会

後 援 農 林 水 産 省  
日 本 農 業 新 聞

## 第16回 全国果樹技術・経営コンクール 受賞者

### ○農林水産大臣賞

福島県	齋藤 栄慶 ・ 齋藤 智美
福岡県	福岡八女農業協同組合なし部会
熊本県	熊本宇城農業協同組合柑橘部会
大分県	小野 次信 ・ 小野 幸子

### ○農林水産省生産局長賞

茨城県	野村 孝尚 ・ 野村 文子
山梨県	秋山 仙一 ・ 秋山 美枝
愛知県	富田 孝 ・ 富田 かおり
和歌山県	紀州農業協同組合みなべいなみ梅部会
徳島県	JA阿波町「ブドウ」部会
愛媛県	青木 聡 ・ 青木 裕香

### ○全国農業協同組合中央会会長賞

青森県	JA八戸果樹総合部会ゼネラル・レクラーク専門部
静岡県	八代 良一 ・ 八代 千鶴

### ○全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞

大阪府	大阪中河内農業協同組合柏原ハウスぶどう出荷組合
香川県	香川県農業協同組合三豊地区高瀬ぶどう部会

### ○日本園芸農業協同組合連合会会長賞

山梨県	甲府市農業協同組合果実部ぶどう部会
長崎県	森 純幸 ・ 森 まどか

### ○全国果樹研究連合会会長賞

鳥取県	長谷川 彰一 ・ 長谷川 美保子
宮崎県	石井 寿幸 ・ 石井 節子

### ○公益財団法人 中央果実協会理事長賞

岩手県	阿部 勝正 ・ 阿部 サチ子
長野県	グリーン長野農業協同組合もも部会

## はじめに

### 全国果樹技術・経営コンクール実行委員会 委員長 弦間 洋

当コンクールは、平成11年度から、生産技術や経営方式等において他の模範となる先進的な農業者、生産団体等を表彰し、その成果を広く紹介することにより、我が国果樹農業の発展に資することを目的として発足したものであります。

近年の果樹農業を取り巻く環境には厳しいものがあり、高齢化の進展や後継者不足、耕作放棄地の増加等による生産基盤の脆弱化、需要の伸び悩みや価格の変動などの問題に直面しております。このような状況に対応し、現在、果樹農業振興基本方針に即して、消費者ニーズに沿った品目・品種への転換、その後発生する未収益期間の支援、新たな加工需要の開発等果樹農家の経営安定と産地の活性化のための幅広い支援策が実施されるとともに、食育と一体となった「毎日くだもの200グラム運動」など果実の消費拡大対策が進められております。

このような施策が所期の成果をあげるためには、関係者の主体的な活動、とりわけ、産地の自助努力が必要かつ不可欠であり、産地振興の中核的役割を担っている方々の活動が最も重要であります。

このため、技術・経営のモデルとして受賞者の成果を広く普及するとともに、先進的な取り組みを実践している産地・生産者を励まし、施策の具体的な推進の中核的役割を担っていただくという視点から実施される当コンクールは、大変意義あるものと考えております。

第16回コンクールの受賞者の技術・経営の概要は以下に取りまとめられているとおりであります。いずれも、各地域において困難な諸条件を克服しつつ、独自の創意工夫や最新の知見の活用、計画的・効果的な投資、集団・地域の合意形成等主体的、積極的な実践によって、高い水準の技術・経営を身をもって達成し、他の模範となる方々であります。

受賞者の皆様には、長年にわたるご努力、ご研鑽に対し深く敬意を表し、心からのお祝いを申し上げますとともに、受賞を契機に、今後とも地域更には全国の果樹農業の中核的な先導者として一層ご活躍されるよう期待する次第であります。

終わりに、ご指導・ご協力を賜りました農林水産省をはじめ関係機関・団体の皆様、厳正な審査に当たられた審査委員の方々に対し、深甚の感謝を申し上げますとともに、引き続き本事業が多く果樹農業者の啓発や士気・意欲の高揚、更には我が国果樹農業の新たな発展に資する意義深いものとなるよう、今後ますますのご支援をお願い申し上げます。

## 農林水産大臣賞

- 福島県 伊達市 (もも、西洋なし、りんご)  
齋藤 栄慶 ・ 齋藤 智美

もも 187 a、西洋なし 103 a、りんご 63 a、合計 353 a の大規模果樹経営である。

経営面では、家族 4 人と常雇 2 人に、作業集中時の臨時雇用で対応しており、ももと西洋なしは農協出荷が主、りんごは直売が主である。

借地による規模拡大と園地集積で効率化を図るとともに、複数品目と品種構成を組み合わせ、長期間の出荷と年間を通じた労働配分を可能にしている。

技術面では、ももは側枝を大きく採光のある主幹型仕立て、西洋なしは風害耐性と作業性のある Y 字棚仕立て、りんごは「足継ぎ」により肉質と食感のよい丸葉台木栽培に更新するとともに、完熟堆肥の投入による土作りや複合性フェロモン剤の利用による減農薬に取り組んでいる。

JA もも部会長として、光センサー選果機導入や原発事故後の風評被害の払拭に尽力するとともに、農業後継者の指導や研修生受け入れなど県果樹農業振興の牽引役となっており、県農業賞を受賞している。

- 福岡県 八女市 (日本なし)  
福岡八女農業協同組合なし部会 (代表者 角 正文)

日本なしを 119ha 栽培する会員 109 戸の JA 部会である。「幸水」「豊水」が主体で共同選果量は約 3,200 トン、販売額は 10 億円を超える。

非破壊内容品質センサーのデータ(糖度・熟度)や等階級発生率、反当たり収量等を基にした部会員毎の実績評価表を作成し、生産意欲の向上や生産指導に活用するとともに、部会員毎に基本樹を設定して、生育状況を全員で年 2 回一斉調査し基本管理の徹底、栽培技術の統一・平準化を図り、高品質化と安定的供給により市場の信頼を得ている。

部会全体で改植更新目標を設定し、園地の若返りを推進するほか、整枝研究会の活動によりジョイント整枝等の省力化技術の導入、園地貸借調査を基にした園地流動化による規模拡大の支援など後継者の確保を進めている。

ポジティブリスト制度への対応のため、他の園芸 5 品目毎の隣接園防除体系に基づいた薬剤散布を徹底するほか、梨・茶隣接園防除会議を定期的で開催している。また、全員がエコファーマー認証を取得するとともに、残留農薬検査、GAP にも取り組み安全・安心ななしづくりに努めている。

○ 熊本県 宇城市 (かんきつ)

熊本宇城農業協同組合柑橘部会 (代表者 山内 良市)

温州みかん 311ha、露地「不知火」247ha、施設「不知火」69ha、中晩柑 53ha、合計 680ha を栽培する部会員 497 戸の JA 部会である。共同出荷量は約 10,800 トン、共同出荷額は約 30 億円である。

出荷では、個人・園地・品種毎に生産量の栽培台帳を毎年作成、全園地を対象に出荷直前に果実分析を行い、内容品質順での出荷量割当制で計画出荷をしている。

温州みかんでは、早くから品種の統一を行い、出荷時期や基準の統一化を図るとともに、栽培園地指定園を設置して高品質果実生産に努めている。

「不知火」では、12 月から 6 月まで加温・屋根掛け・露地・冷温貯蔵・P プラス（鮮度保持資材）・後期貯蔵と内容品質順での出荷量割当制により安定した品質と長期販売を実現し、温州みかんと併せ、市場や消費地からの高い信頼を得ている。

担い手対策として、大規模園地整備や補助事業を活用し、省力的な園地整備や優良品種への改植をすすめるとともに、地域全体の集荷・選果と細やかな品質区分が出来る高機能選果施設を整備し、出荷者毎の選果データ（品質・単価）をフィードバックして、品質向上意欲や農家指導に繋げている。

○ 大分県 宇佐市 (ぶどう)

小野 次信 ・ 小野 幸子

ハウスぶどう 97 a、雨よけぶどう 30 a を主体に、銀杏 90 a、カボス 20 a、合計 237 a の果樹専業経営である。

経営面では、ぶどうの加温栽培を中心にした家族労働主体の経営で、農協出荷と直売で 2 千万円を超える販売額を維持している。

10 種を超える品種構成と 6 月下旬出荷の早期加温から 9 月出荷の雨よけ栽培までの作型分散と省力的な平行整枝短梢せん定、SS、乗用草刈り機などの機械化で雇用に頼らない経営を実践している。

技術面では、「ピオーネ」の無核栽培や「シャインマスカット」を先駆けて導入し、早期の花穂形成や「ピオーネ」のジベレリン 1 回処理、ヒートポンプの導入による経費削減や平行整枝短梢栽培技術による効率化などの新技術を積極的に実証し、地域に還元するとともに、指導農業士として後継者を育成するなど地域の生産技術の向上に貢献している。

また、ぶどう部会の役員として、出荷規格の見直しなどと併せ、高単価が狙える東京・大阪への早期出荷を牽引し、部会員の所得向上に尽力している。

## 農林水産省生産局長賞

- 茨城県 <sup>しもつま</sup>下妻市 (日本なし)  
<sup>のむら</sup>野村 <sup>たかひさ</sup>孝尚 ・ <sup>のむら</sup>野村 <sup>ふみこ</sup>文子

日本なし 180 a を栽培する大規模経営である。

経営面では、借地と水田転作で規模拡大し、家族 2 人と臨時雇用で対応、全量を系統出荷している。

ジベレリン処理により盆前の早出し出荷を行うほか、着果と摘果管理により、大玉生産と高反収の両方を実現し、平均収量は 2.9 トンと県の平均収量を大きく上回っている。

全園に多目的防災網を設置することにより雹害を防止し、全ほ場の土壌診断により適正施肥と馬糞による土作りを実施している。

「下妻の梨 PR プロジェクトチーム」の結成に携わり、樹上完熟の差別化商品「下妻甘熟梨」の産地ブランド化に向けて、契約取引、対面販売、もぎ取り体験、「梨リキュール」開発、輸出などに取り組んでいる。

高樹齢園対策として、県育成品種「恵水」への改植や、そのための大苗の集団育苗等体制づくりに積極的に協力、自園地を技術研鑽のための研修会場として提供し、後継者向け農業講座の講師を務めるなど、地域のなし経営の模範となっている。

- 山梨県 <sup>みなみ</sup>南アルプス市 (おうとう、もも、すもも、かき)  
<sup>あきやま</sup>秋山 <sup>せんいち</sup>仙一 ・ <sup>あきやま</sup>秋山 <sup>みえ</sup>美枝

ハウスおうとう 11 a、おうとう 45 a、もも 50 a、すもも 18 a、かき 70 a など合計 212 a の大規模果樹経営である。

経営面では、家族 3 人と臨時雇用 5 人で対応し、ほぼ全量を JA に出荷しているほか、あんぼ柿加工を行っている。

ハウス及び多品目栽培による労働分散と冬場のあんぼ柿加工による 8 ヶ月の長期安定雇用で規模拡大に必要な雇用人員を確保するとともに、植栽間隔を広く取り作業機、軽トラックの活用しやすい園地づくりで省力化を図っている。

おうとうでは貯蔵花粉利用による人工受粉の徹底と防霜ファンの導入により、結実の確保と安定化を図るほか、独自に研究開発した低樹高仕立ての整枝技術を実践し、地域への普及に貢献している。

地域の 3 倍以上の経営規模で、大規模経営のモデルとなっている。また、JA 果実部会長や農業委員などを務め、栽培技術の伝承や担い手育成に尽力している。

○ 愛知県 <sup>とよはし</sup>豊橋市 (もも、かき)  
<sup>とみた</sup>富田 <sup>たかし</sup>孝 ・ <sup>とみた</sup>富田 かおり

もも 90 a、かき 176 a を主体に、くり 50 a、合計 316 a の大規模果樹経営である。

経営面では、家族労力 2 名と臨時雇用により、多様な品種構成で 6 月中旬から 12 月上旬の長期出荷体制をとり、市場出荷を主体に J A 産直施設で直売も行っている。

雇用管理は、かおり氏が主となり、パート目線で労働環境を整備し、パートと家庭の両立が可能な勤務時間や出勤日を柔軟に設定している。

もも及びかきでは、棚仕立てと低樹高仕立てを地域に先駆けて導入し、地域全体への普及を牽引するとともに、ももの難防除病害のせん孔細菌病対策を独自に確立し、産地の技術向上に貢献している。

新品種の導入を地域に先駆けての試験栽培と J A 産直施設での試験販売により決定するなど、地域をリードするとともに、地域 J A の桃部会長として光センサー付き機械選果機の導入に尽力し、機械共選体制への移行に貢献している。

○ 和歌山県 <sup>ひだかぐん</sup>日高郡 <sup>ちよう</sup>みなべ町 (うめ)  
<sup>きしゅう</sup>紀州農業協同組合 <sup>うめ</sup>みなべいなみ梅部会 (代表者 <sup>ありもと</sup>有本 <sup>よしのぶ</sup>義宣)

うめを 2,174ha 栽培する部会員 1,663 戸の J A 生産販売部会で、共同出荷量は 5,345 トン、共同出荷額は約 15 億円である。収穫量 35,843 トンのうち流通の 2 割弱を占める青果市場向けの共販率は 98% である。

うめは全国生産量の約 25% を占め、うめのトップブランド「南高梅 (なんこううめ)」の一大産地であり、「紀州みなべの南高梅」で地域団体商標制度の商標登録を受け、1 次加工した梅干しの販売額は約 85 億円で全国一である。

各地の消費者を現地に招く「梅もぎ体験ツアー」や、部会員の女性等で構成する「梅愛隊 (うめあいたい)」が消費地に出向いて食べ方や健康機能性、加工方法の P R を行う食育活動などを実施し、消費拡大とブランド強化に積極的に取り組んでいる。

園地ごとに農薬使用履歴等を入力するトレーサビリティシステムを全国に先駆けて導入したほか、GAP、農薬残留分析の実施、交信かく乱剤の使用等、安全・安心に取り組んでいる。

○ 徳島県 <sup>あわ</sup>阿波市 (ぶどう)  
JA <sup>あわちよう</sup>阿波町「ブドウ」部会 (代表者 <sup>たむら</sup>田村 <sup>かずひさ</sup>一久)

ぶどうの「デラウエア」11ha、「ピオーネ」2ha、「巨峰」1ha、合計14haを栽培する16戸の部会で、共同出荷量は約79トン、共同出荷額は約8,400万円である。

気象条件を活かし、加温に頼らず、被覆時期を順次ずらすことで、ハウス栽培「デラウエア」を5月初頭から7月下旬まで有利販売するとともに、共同選果により品質の均質化を図り市場から高い評価を得ている。

県では少ない短梢せん定方式により整枝作業効率の向上と多収を図るとともに、共同選果による労働節約から専業経営が可能となり、産地が維持されている。

全部会員がエコファーマーを取得しており、土壌分析による施肥設計や早生「デラウエア」の優良品種「紅南陽」への改植に取り組むほか、鳥獣害対策として、防鳥網、電気柵、箱罌等を活用している。

○ 愛媛県 <sup>いよぐんとべちよう</sup>伊予郡砥部町 (かんきつ)  
<sup>あおき</sup>青木 <sup>さとし</sup>聡 ・ <sup>あおき</sup>青木 <sup>ゆか</sup>裕香

温室みかん51a、施設中晩柑32a、露地みかん42a、露地中晩柑68a、合計193aの大規模かんきつ経営である。

経営面では、収穫期の分散により家族4人と臨時雇用で対応し、全量を農協に出荷している。

隣接園地の購入と中古ハウス資材の再利用による自力での施設整備により規模拡大を図り、ビニールの多重被覆やヒートポンプ導入で重油コストを削減している。

施設「せとか」の加温栽培では、県コンクールの品評会において農林水産大臣賞を受賞するなど、施設中晩柑では品種の特性を活かして品質管理を徹底した栽培を行い、生産単価はJA平均を大きく上回っている。

労力や収益性を考慮した品種更新を進めて規模拡大と農業収入の拡大を図り、地域の模範として栽培技術の発展に貢献している。

## 全国農業協同組合中央会会長賞

- 青森県 <sup>さんのへぐんなんぶちよう</sup>三戸郡南部町 (西洋なし)  
JA <sup>はちのへかじゅそうごうぶかい</sup>八戸果樹総合部会 <sup>せんもんぶ</sup>ゼネラル・レクラーク <sup>いずみやま しげる</sup>専門部 (代表者 泉山 茂)

西洋なし「ゼネラル・レクラーク」を15ha栽培する35名のJA専門部で、共同出荷量は179トン、共同出荷額は約6,200万円である。

栽培協定により土壌改良資材や有機質肥料の統一で食味向上と品質の均一化を図るとともに、「波状型棚仕立て」を考案して、作業性の向上と商品化率をアップし、10a収量は県平均の1.4倍の1,700kg、kg単価は3倍の350円を実現している。

全員が「エコファーマー」を取得したほか、熟度調査による収穫期間の設定と糖度センサーにより一定糖度以上の追熟厳選出荷と食べ頃の明記など、生産から流通・販売までの総合的な戦略により産地力を向上させている。

ジュース、アイスクリーム、ワイン加工など6次産業化に取り組み、「新宿高野」の定番商品、国際線での提供、全国の百貨店への拡大など全国ブランド化に成功し、県の「意欲あふれる攻めの農林水産業賞」を受賞している。

- 静岡県 <sup>かもぐんひがしいずちよう</sup>賀茂郡東伊豆町 (かんきつ)  
<sup>やしる よしかず やしる ちづる</sup>八代 良一 ・ 八代 千鶴

ハウスみかん44a、中晩柑200a、合計244aの大規模かんきつ経営である。

経営面では、ハウスみかん主体に、収穫期の異なる中晩生かんきつを組み合わせ、後継者を含む家族労働3人で対応し、全量を農協出荷している。

早くからハウスみかんに取り組み、糖度平均12.5度の高品質と平均反収5,696kgの多収を実現している。また、県で最初にヒートポンプと3重被膜を導入し、重油使用量を5割削減し、地域への普及の模範となっている。

大規模基盤整備事業を活用し、1.2haを「はるみ」と「ネーブル」に改植したほか、借地や取得で規模拡大するとともに、大苗育苗による部分改植・補植により短期間で収量を回復し、園地の若返りを図っている。

県や町の農業経営、果樹関係団体の役職を務め、学生や普及指導員の研修の受け入れや自園地を研修会場に提供するなど、地域の農業振興と経営安定に尽力している。

## 全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞

- 大阪府 <sup>かしわら</sup> 柏原市 (ぶどう)  
<sup>おおさかなかかわち</sup> 大阪中河内農業協同組合 <sup>かしわら</sup> 柏原ハウスぶどう出荷組合 (代表者 <sup>おくの</sup> 奥野 <sup>まさし</sup> 正)

施設ぶどう「デラウェア」を6.47ha栽培する12戸のJA出荷組合で、共同出荷量は86トン、共同出荷額は約6,300万円である。露地栽培「デラウェア」や施設栽培の大粒系品種は個人直売所や宅配で販売している。

個選共販体制をとり、各自箱詰めしたものを集出荷場で全員が検査し、1つでも不合格があると対象ロット全量を出荷停止にする入念な検査態勢をとり、市場関係者の信頼を得て「柏原ぶどう」ブランドを確立している。

無加温から超早期加温栽培まで6つの作型に分散することにより、収穫期間の延長と労力分散を図り経営規模を拡大している。傾斜地が多いので、長梢せん定で生育調整するとともに、送風ダクトや内張カーテンを使用して、傾斜ハウスの温度の均等化を実現している。ビニール被覆作業については、共同で実施し労働時間を短縮している。

また、防除歴、栽培履歴の記帳を義務づけるなどGAP手法を30年以上前から実施し、農産物の安全・安心に取り組んでいる。

- 香川県 <sup>みとよ</sup> 三豊市 (ぶどう)  
<sup>みとよ ちくたかせ</sup> 香川県農業協同組合三豊地区高瀬ぶどう部会 (代表者 <sup>ふじぼやし</sup> 藤林 <sup>ただよし</sup> 忠義)

施設ぶどう6.4ha、露地ぶどう18.9ha、合計25.3haを栽培する111戸の部会で、共同出荷量は237トン、共同出荷額は約2億4千万円である。

消費者ニーズに対応して新植・改植を進め、「ピオーネ」は本県が全国5位である県生産量の8割を占め、高い技術力から「高瀬ぶどう」としてのブランド評価を得ている。

部会員の「ピオーネ」の着色の中から優れた系統の選抜を行い、苗木生産実証ほを設置するなど供給体制を整備して新改植を進め、県下全体へも普及している。

また、「シャインマスカット」の栽培基準を部会員の管理内容を基に作成して管理の統一を図り、全国一の品質評価を得ている。

高品質の果実を県が定める「さぬき讚フルーツ推奨制度」に取り組み、「ピオーネ」「シャインマスカット」が「さぬき讚フルーツ」の認定を受け、ブランド品種を核とした販促活動を展開している。

## 日本園芸農業協同組合連合会会長賞

- 山梨県 <sup>こうふ</sup>甲府市 (ぶどう)  
<sup>こうふし</sup>甲府市農業協同組合果実部 <sup>かじつぶ</sup>ぶどう部会 (代表者 <sup>おの</sup>小野 <sup>やすし</sup>泰)

ぶどうを 138ha 栽培する 512 戸の部会で、共同選果量は 1,572 トン、共同出荷額は約 9 億円である。

昭和 34 年、全国に先駆けてジベレリン処理による「デラウエア」の種無し化に成功し、以来、種無し栽培技術の安定化に取り組み、県下の種なし「デラウエア」の産地化に多大な貢献をした。

販売面では、早場産地の優位性を生かせるよう「デラウエア」の 7 月盆前出荷、「巨峰」「ピオーネ」の 8 月旧盆前出荷が可能となる優良系統を選抜するとともに、食べきりサイズのコンパクトな房づくりとパック詰め出荷により早期出荷と併せた有利販売を実現している。

品質面では、糖度、酸度を測定できるハンディ型光センサーをいち早くぶどうの共選所に導入し、食味を重視した高品質果実の選果、品質の均一化に活用している。

また、防除日誌の記帳と提出を義務づけ、県の農業生産工程管理手法 (GAP) を推進し、農薬の適正使用や飛散防止など安全・安心なぶどう生産に取り組んでいる。

- 長崎県 長崎市 (びわ、もも)  
<sup>もり</sup>森 <sup>すみゆき</sup>純幸 ・ <sup>もり</sup>森 <sup>まどか</sup>まどか

ハウスびわ 40 a、露地びわ 115 a を主体に、ハウスもも 25 a、中晩柑 (「せとか」) 30 a、合計 210 a の大規模果樹専業経営である。

経営面では、品目と品種をバランス良く配置して労力分散を図り、家族 4 人の労働が主体であるが、家族経営協定により妻の家事労働にも配慮し、収穫の繁忙期には近隣住民のパート雇用で家族労働を軽減している。びわは農協出荷、ハウスももと中晩柑 (「せとか」) は個人出荷を中心に直売も行っている。

県のびわ新品種「なつたより」の現地試験栽培者として協力し、地域に先駆けて導入、産地化に貢献している。

また、ハウスびわの循環扇・自動換気装置の導入による高温障害果の軽減や簡易ハウス導入による寒害対策、降雨による果実腐敗防止、露地より 1 週間早い作型の開発、普及など先駆的な取り組みで産地を牽引している。

地元のびわ関係団体の要職を務め、各種研修や体験農業を受け入れるなど地域農業の牽引役として貢献している。

## 全国果樹研究連合会会長賞

- 鳥取 <sup>よなご</sup>米子市 (日本なし、もも)  
<sup>はせがわ</sup>長谷川 <sup>しょういち</sup>彰一 ・ <sup>はせがわ</sup>長谷川 <sup>みほこ</sup>美保子

日本なし 160 a ともも 40 a、合計 200 a の大規模果樹経営である。

経営面では、家族労働 4 人を主体に、日本なしは、ほとんどを農協出荷し、ももは、収穫労働が省ける全量もぎ取り方式の観光農園で販売している。

園地の高度差による開花期分散、自家和合性の品種導入、受粉用赤なしの混植、ジョイント栽培、網掛け、無袋化等により省力化を図るとともに、多品目、多品種により収穫期を 8 月から 11 月まで分散、雇用労働に頼らない経営を実現している。

また、黒斑病耐性のなし「ゴールド二十世紀」「おさゴールド」へ品種転換し、病気被害を解消するとともに、高糖度品種「新甘泉」「なつひめ」をいち早く導入し、糖度センサー選果を活用して高値販売を実現している。

地域にあつては、国営農地開発の畑地かんがいのモデル園地となり、多目的スプリンクラー利用によるかん水、防除の普及に貢献したほか、JA 果実部長として雪害からの産地復興活動の中心的役割を果たすなど、新品種への大転換やジョイント網掛け栽培のモデル展示、糖度センサー選果機整備等を牽引している。

- 宮崎県 <sup>ひがしうすきぐんみさとちょう</sup>東臼杵郡美郷町 (くり)  
<sup>いしい ひさゆき</sup>石井 寿幸 ・ <sup>いしい せつこ</sup>石井 節子

くり 220 a を栽培する果樹経営である。

経営面では、家族労働 2 人で対応し、ほとんどを JA 出荷している。

8 月中旬から 10 月中旬の収穫期の異なる品種の栽培により労力を分散し、高品質生産に取り組んでいる。

イタリアンやナギナタガヤの草生栽培による除草の省力化、低樹高栽培による作業性や経済樹齢の改善、収穫ネットを利用した効率化、電気柵による獣害防止などに取り組んでいる。

JA の栗部会の役員を務め、生産者出資による栗加工会社を設立し、栗あんの販路拡大に貢献するとともに、小、中学生や消費者を対象とした食育活動の講師として、食育活動に積極的に取り組み、くり産地の発展に尽力している。

## 公益財団法人中央果実協会理事長賞

- 岩手県 <sup>いちのせき</sup>一関市 (ぶどう)  
<sup>あべ</sup>阿部 <sup>かつまさ</sup>勝正 ・ <sup>あべ</sup>阿部 <sup>さちこ</sup>サチ子

雨よけ施設ぶどう 160 a の大規模ぶどう経営である。

経営面では、自宅の直売所での販売を中心に、家族3人と臨時雇用5人で、多品種の展示や詰め合わせなど対面販売を工夫しているほか、家族経営協定で家族内の業務分担の明確化を図っている。

全園地に雨よけ施設を導入し、裂果抑制、成熟前進化、果粒肥大促進で有利販売と品質向上を図っている。

消費者嗜好に対応して70種の多品種を栽培し、労働分散と気象災害の回避を図るとともに、短梢せん定できる品種の導入により省力化を図っている。

県下で最初に大粒品種を導入し、約100品種の試験導入により独自に寒冷地への適応品種の選定や栽培技術、各種生育調整剤の使用法の確立、県奨励品種「紅伊豆」の産地化などに貢献している。

地域で第1号のエコファーマーであり、環境にやさしい農業を実践するとともに、県農業農村指導士、ぶどう技術アドバイザーとして大粒ぶどう栽培技術の普及に尽力している。

- 長野県 長野市 (もも、ネクタリン)  
グリーン<sup>ながの</sup>長野農業協同組合もも部会 (代表者 <sup>いわま</sup>岩間 <sup>よしかず</sup>嘉一)

ももを205haを栽培する1,135戸の部会で、共同出荷量は2,890トン、共同出荷額は約12億円である。

規格統一を図り、さらに、目視第1等級で、かつ糖度センサーで一定以上の糖度のものを「輝輝」等級として出荷し、「美味しいもも」「当たり外れの無いもも」として消費者の信頼を得ている。

交信かく乱剤使用による減農薬、生産工程管理(GAP)の導入、生産履歴、栽培日誌の収穫前完全提出、全農長野と連携して品種毎に残留農薬の自主検査を実施するなど、安全・安心なもも生産に取り組んでいる。

担い手の確保のため、新規就農者や定年帰農予定者を対象に果樹基礎技術習得セミナーを開催するほか、JAと連携して耕作放棄園対策や農地流動化に取り組むとともに、低位生産園の優良品種への更新や低樹高疎植栽培に取り組んでいる。